城陽環境パートナーシップ会議
できることからはじめよう！

城陽エコパートナー通信

Vol.44

発行日：平成 27 年(2015 年)1 月 7 日　　編集・発行：城陽環境パートナーシップ会議
会員数：297 人（12 月 31 日現在）　　（事務局）Tel(56)4061　Fax (56)3999

新年あけましておめでとうございます

みなさま　健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
城陽環境パートナーシップ会議は11年を超える長きにわたり、活動を継続しております。これはひとえに会員･運営委員他関係各位の熱心なご参加と、ご協力のお陰であります。改めて感謝申し上げます。
　地球温暖化は人類を含むすべての生物の生存を危うくする環境の変化をもたらしています。環境問題は地球規模で考え(Think Globally)、地域で取り組む(Act Locally)が原点です。これは当会議の理念でもあります。これからも当会議は、多くの人の英知を集め、地球温暖化防止につながる、より高度なエコライフスタイルを地域の人々に提案してまいります。
　本年も引き続きご協力をたまわることをお願いして新年のご挨拶といたします。　　会長　大野和宣

企業訪問　11/26「株式会社ミズホ」へ行ってきました！

今年度は事業所訪問として、㈱ミズホさんにお邪魔することとしました。お話をお聞きし、高品質の安定供給を実現する独自の技術開発に、日々努力されていることが容易に理解できました。また、自動車のベアリングを始め、医療分野ではナノレベルの加工に貢献されており、自分が考えていた以上に広範囲な開発をされていることに驚かされました。精密加工砥石の開発で培った技術が支えている、まさにプロの領域です。
　マネジメントシステムでは、KES の認証を取得し、地道に活動されていることが説明から聞き取ることができました。特に、環境宣言の中に「城陽市の環境基本計画」や「城陽環境パートナーシップ会議との協働」という文字を見出し、パートナーシップの前身の環境市民懇話会における㈱ミズホさんの役割や頑張りを思い出し、少し嬉しい気持ちになって訪問を終えました。　　（文：芦原副会長）

12/6「男のエコ料理教室」を開催しました！

本会議では、地産地消を重視したエコ料理教室を実施してきました。今回、新たな取組みとして男性向けのエコ料理教室を企画し、東部コミセン料理室で開催。応募くださった１４人の方は、三角巾の着用が初めてという方から、料理教室常連のベテランの方まで。　実習メニューは、京風の白味噌雑煮とおせちの祝い肴５種（黒豆、数の子、胡桃ごまめ、たたきごぼう、紅白なます）です。使用食材は地産地消にこだわり、スタッフが城陽で栽培し収穫した大根・金時人参・黒豆・柚子を提供。「食は命」が基本の本日の講師、木下穂支子先生より、人間の体を作るものはすべて口から入る。水、塩、米が大事ということ。そして祝い肴のいわれ、作り方を説明する調理のデモンストレーションへ入りました。

◆木下先生の実習ポイント　❖調味料は添加物なしを使用。国産の塩(種子島)・租砂糖・大豆、酵母、塩だけの生醤油・本田味噌本店（京都）の白味噌・貴重な国産ゴマ❖美味しく食べ易い大きさは３センチ（たたきごぼうなど）。この大きさに切る。❖雑煮は地方によりまちまち。京都の雑煮は昆布だけで出汁をとる白味噌雑煮。最後に入れる辛子がポイント。❖マメになるようにと黒豆。全ての調味料を合せた汁に一晩漬け、コトコト煮て一晩寝かす。❖子孫繁栄の数の子の塩抜きは、塩を抜きすぎず、味見をしながら好みの塩加減に。数の子のつけ汁は必ず冷まして漬けること。❖ごまめは米作りを表し「田作り」「五米目」ともいう。ごまめはそのまま食べず、火を通すこと。ごまめはオーブンで 200℃10 分、胡桃は 160℃3 分で簡単ごまめの出来上がり。❖豊作を願うたたきごぼうは、叩くことで癌の予防になるといわれるリグニンがでる。❖おめでたい紅白なますの大根と人参は、人参成分が大根のビタミンＣを壊すためそれぞれに塩を。水気をしっかり絞る。細切りした柚子皮と細切り昆布で美味しさ倍増。
　さぁ、上記のポイントをおさえ、実習スタート！　女性の場合、作りながら自然に役割分担されますが、男性の場合、まずは役割分担をされており、初めての方は基本の切り方から質問続出。どうなることかと思いきや 12 時過ぎにはみんな揃っていただくことができました。後片付けも手際よく、ちゃっちゃと済ませて、和やかな顔でお帰りになりました。　　（文:中島委員）

第13回城陽市環境フォーラムを開催!!

～考えよう　ごみの将来　循環型社会について～

開催日　11月15日
場所　東部コミセン

着物リメイクファッションショー

フォーラムのトップバッターは、着物リメイクファッションショー。着古した着物や兵児帯をリメイクする活動です。３Ｒというリユースの実践で、今回のフォーラムのメインテーマ「考えようごみの将来　循環型社会について」にふさわしい催しでした。モデル自らの手で命を吹き込んだ作品を、自らが着て紹介するのだから、自信満々の紹介になるのは当然であり、心身をもリメイクされたのでは？と思うほど生き生きとした表情が並んでいました。楽しくなければ活動は続けられないというアトリエ布日和の代表の思いを見た気がします。会場はモデルさんと同年代の女性で埋め尽くされ、ファッションショーが旬のイベントであることを物語っていました。見事に変身した洋服や着物、さらには艶やかなドレスが披露されるたびに、大きな歓声が沸き、ショーが終わった後の質問コーナーでも、着物などをリメイクする術や、布日和に入会するには？の問合せが寄せられました。代表のお話では、入会は、キャンセル待ちの状態が続いているという。３Ｒの実践や環境問題の継続は、楽しくやることが原点であることを改めて認識させられました。

（文・芦原副会長）

本日のモデルのみなさん

素敵なリメイクファッションです

こどもエコ・クッキング教室

今回、大阪ガスさんに全面協力していただき、こどもエコ・クッキング教室を開催しました。

最初に「毎日の食事と環境問題はどうつながっているのかな？」と題し、地産地消の大切さや、食事と環境の結びつきについてお話をされ、生ごみに関するクイズをしたところ、子供たちも真剣に答えていました。小さい子供さんの参加もあり、包丁を持つのは大丈夫かな・・と思いましたが、保護者の指導のもと、包丁も上手に使っていました。時間をかけて実習メニューの４品を仕上げ、お昼ご飯として全員でいただきました。食事中、ピーマン嫌い、ニンジン嫌いといった声もなく楽しく賑やかに完食。「次は、いつあるの？」という子供の声に、私は感激しながら「また会おうね」と約束をして終了しました。

（文・米田委員）

【実習メニュー】ごはん・味噌汁・野菜炒め・ふりかけ

親子でクッキング

食事と環境のつながりについて

出店・体験コーナー

こちらでは、城陽産にこだわって、**城陽旬菜市**より、旬の野菜、加工品と芋おこわの販売、**梅工房**より、芋パウンドケーキ（芋）とスノーボール（イチジク）と煎茶ケーキ（菜種油）の販売、**本会議**より、菜種油とコーヒーの販売、**エコ・ポート長谷山**より、リサイクルアート小物販売とクリスマスリース・クリスマスツリーのワークショップを催しました。

ワークショップで可愛いクリスマス小物作りに挑戦する人達や、展示を観た後やエコ・クッキング教室の後のひと休みに、ゴミ問題や環境問題の意見交換の場に、談笑する人達で賑わいました。ファッションショーのモデルさん達が自作のステージ衣装のままで現れた時には最高潮！間近で作品を見、手で触れ、質問もできて、聴く人の創作意欲もおおいに触発されます。ケーキ作りや野菜作りの話題も盛り上がります。物作りは、殊に身近な「もの達」を活き活きさせる「エコな物作り」は、関わる人達をも活き活きさせるようです。野菜は早々に完売。野菜販売を楽しみに来てくださった方には申し訳ない。次回は補充体制も要検討の、うれしい誤算でした。

（文・上野委員）

城陽旬菜市（城陽産野菜等販売）

青谷梅工房の販売

エコ・ポート長谷山体験教室

展示販売

にぎわう出店コーナー

山川氏の講演

山川氏と小林運営委員

講演会

城陽市では平成27年1月からプラスチック容器包装の分別収集が開始されます。お菓子の袋や食品の容器、飲物のペットボトルなど、プラスチック素材は様々なものに使われています。今まではペットボトル以外は、「燃えるごみ」または「燃えないごみ」として収集され、焼却または埋め立て処分をされていました。このプラスチックを再生資源としてリサイクルするために分別収集されることになりました。資源のリサイクルは地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を抑制する循環型社会を築くためにも欠かせない仕組みです。

城陽環境パートナーシップ会議では、この問題を市民レベルで、よりわかりやすく理解する機会を作る必要があると考え、今年の環境フォーラムのテーマに取り上げました。

講演会では、京都府立大学大学院生命環境科学科の山川肇准教授をお招きし、**『なぜ「プラマーク製品」の分別が必要なの』**と題し、講演をしていただきました。

容器包装のリサイクルはすでに、１９９５年に制定された法律（容器リサイクル法）により国を挙げて取り組んでおります。自治体には金属、ガラス、紙、プラスチックに分けた分別収集の努力義務が課せられています。城陽市ではプラスチックの分別収集がまだ実施されていませんでした。

分別収集・リサイクルの対象となるプラスチック製容器包装にはプラマークがついています。お菓子の袋や食品の容器でプラマークがついていれば分別の対象です。クリーニング店が出来上がりの衣類に被せるプラスチックのカバーなど店がサービスとして提供する包装用プラスチックなどは対象外です。

その他、分別が必要なわけ、リサイクルが地球温暖化防止につながる理由、さらには環境への負担がより軽く、リサイクルに優先される２つのＲ（リデュース＝使用量を減らす・リユース＝繰り返し使う）について解説をしていただきました。

この後、当会議の小林運営委員から分別収集が具体的にどのように変更されるのか、生ごみを含めたごみ回収の現状について詳しく解説がありました。

最後は、質疑応答で締めくくりフォーラムを終了しました。

（文・大野会長）

環境紙芝居

ともすれば難しいと思われがちな環境問題を、子供たちにわかりやすく伝えるために、城陽高校と協働制作した環境紙芝居。昨年度のフォーラムでは城陽高校の生徒さんに紙芝居を上演していただきました。

今年の夏に環境出前講座として環境紙芝居の上演を市内の保育園に提案したところ、自分たちの園でも上演してほしいという要望が増え、更に子供たちの反応も良く、来年度以降も出前講座として充実を図ろうと部会で総括したところです。

今年度の集大成として、フォーラムではパートナーシップ会議のメンバーで、紙芝居を上演することを決めました。出前講座では何度も実践しているため、掛け合いはうまくいきましたが、イベント間の待ち時間が長くなり少し間延びしたことや、出前講座では子供を対象にしているが、フォーラムでは対象を子供に絞ることはできないため、反応がいまいちの印象で、次回に向けての反省点です。

（文・芦原副会長）

環境紙芝居の上演

展示

城陽市観光協会梅の郷青谷づくりからは３つの部会（里山・梅林・特産品）が連携しながら青谷梅林の復興をめざし地域の皆さんと一緒の活動内容を展示。**城陽市衛生センター**からは、近い将来ごみ埋め立て地の消滅？対策のひとつとして燃えないごみとして処理されていたプラマーク表示されているごみが資源として本年１月より発泡スチロール・発泡トレーなどと同時に回収されることなどのＰＲ展示。**本会議**からは「城陽生き物ハンドブック」の改訂版発行ＰＲ（関連記事〝エコパートナー通信〟前号43号参照）・いろいろな鳥のそれぞれの特徴をデフォルメされた描画（富士鷹なすび画）・省エネナビの貸出し案内・環境家計簿への取組み啓発・エコバスツアーなど各部会の活動紹介の展示。それぞれに来場者の興味と感心を引いていました。

（文・岡田委員）

展示コーナー

大抽選会

講演会終了後、参加者に下記賞品①デジタル天気温度計３人・②晴雨予報グラス３人・③地産地消セット《梅サイダー２本、イチジクジャム１個入り》５人・④抗菌まな板（大阪ガス㈱提供）２人・⑤ネストカップ（大阪ガス㈱提供）１人・⑥われわれ**城陽環境パートナーシップ会議**が大切に種から育てて、搾油した**純城陽産菜種油**５人）合計19名に当たる大抽選会を和やかに、盛大におこないました。講演会参加者全員には、城陽市観光協会・【青谷梅の郷事務局】より荒廃した梅林に侵入してきた**竹**を伐採し焼いた、野菜が美味しく、植物が元気になる『**竹炭**』を配布しました。

（文・井手委員）

クジを引く会長

城陽産菜種油、当たりました!!

イベント Information

洛南タイムス社の新聞に、当会議の中川宗孝運営委員執筆「ナチュラリストのフィールド日記」、小林　駿運営委員執筆「だれでもわかる“環境の基礎と実践”」を掲載しています。掲載記事をご入用の方は、事務局までお問い合わせください。

2月11日(水・祝)　第4回自然観察会を開催します！

城陽市を流れる古川流域の「野鳥と自然環境の観察会」をおこないます。

冬の古川を散策しながら、絶滅危惧種のチョウゲンボウなど、多様な城陽の冬鳥を観察にいきませんか？参加者には、改訂版「城陽生きものハンドブック」を進呈します。

■時間:9 時　集合　12 時　解散　※雨天中止(判断しかねるときは、当日 8:30～8:45 に事務局へ電話)
■集合場所:北部コミセン　■対象:市内在住・在勤・在学の人　■参加費:無料
■講師:環境生物研究会　脇坂英弥氏　■持物など:筆記用具、水筒、タオル、帽子、城陽生き物ハンドブック(お持ちの方)動きやすい服装でご参加ください。
■参加受付:2 月 2 日(月)より開始

3月4日(水)　「エコバスツアー」参加者募集！

私たちが出したリサイクル家電製品から高品質の再生素材をどのように社会に循環させているのか、また消費者の立場から家電リサイクルについて何ができるのか考え、学びましょう。

■行先:関西リサイクルシステムズ㈱(枚方市春日北町)■時間:集合・出発 12 時 40 分　解散:16 時予定
■集合場所:城陽市役所南側駐車場　■定員:先着 30 名
■対象:市内在住・在勤・在学の人
■参加費:無料■持物:お茶、筆記用具
■参加受付:2 月 16 日(木)より開始

※申込・問合せは、いずれも城陽環境パートナーシップ会議事務局(環境課)TEL56-4061 へお電話で(土日祝日を除く)

～環境、サイフに優しい冬の省エネ～
照明のLED化：白熱灯は積極的に、蛍光灯は慎重に取り替えを！

文：小林委員

昨年末、青色発光ダイオード(LED)を発明・実用化した日本人3人がノーベル物理学賞を受賞しました。これは正に照明革命といってよい快挙です。照明以外にも信号機、記録媒体や植物工場等の分野でも大きな期待が寄せられています。

現在、電力を光に変換する効率は概ね 10～20%、つまり 80～90%が熱エネルギーとなって無駄に捨てられています。今回の LED の発明・実用化で、今後の研究開発で電/光変換効率が、80%近くまで可能性が開かれました。既に、ちまたでは LED 販売商戦が盛んで、全ての照明器具は即 LED 器具へ！との取換雰囲気が醸し出されています。実際は白熱電球と比較すると消費電力が 1/6～1/10 に低下するが、現在照明の主流である蛍光灯と比較すると消費電力は、同等かやや劣るのです。しかも、日本製についての話で、海外の低価格製品については、品質も効率もそこまで行っていません。ご存知「ものを造るにも捨てるにも必ずエネルギーを使う」、いわゆる「カーボン・フットプリント」を考慮に入れると「蛍光灯」の場合、現段階で使える間はそのまま使うのが地球温暖化防止にもサイフにも良いのです。LED は長寿命、直ぐ点灯するなどの特徴を活かした賢明な選択をしましょう。

地域社会の発展に奉仕する
城陽金融会
京都銀行
南都銀行
京都中央信用金庫
京都信用金庫
京都信用保証協会

城陽商工会議所
がんばる経営、応援します！

東城陽ゴルフ倶楽部
京都府城陽市寺田奥山 1-48
0774-52-1161

次の団体・個人から賛助会費をいただきました。誠にありがとうございました。

イズミヤ㈱大久保店、近畿砂利協同組合、京都城陽ロータリークラブ、サントリー食品工業㈱宇治川工場、㈱城南工建、城陽市、城陽商工会議所、城陽金融会、星和電機㈱、玉井開発、長池工業㈱、日本観光ゴルフ㈱城陽カントリー倶楽部、東城陽ゴルフ倶楽部、㈱平和堂アル・プラザ城陽、㈱ミズホ、森澤博光

※平成 26 年 12 月末現在（五十音順・敬称略）